

<b>マシン油乳剤</b> <b>クミアイアタックオイル</b>	<b>取扱メーカー：</b> クミカ  <b>原体メーカー：</b> —
<b>成分：</b> マシン油……………97.0% <b>その他 PRTR 該当成分：</b> ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル〔PRTR・1種〕…1.4% キシレン〔PRTR・1種〕……………1.1%	<b>性状：</b> 澄明可乳化油状液体  <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> 第4類・第3石油類（非水溶性）・危険等級III

## 【品目特性】……………

- 粘度、パラフィン率、蒸留温度範囲に注意を払い、特にスルホン価をゼロ近くまで高度精製したことにより効果も高く、葉害の心配が少ない。
- 物理的な殺虫作用を示し、抵抗性ハダニに対しても、優れた効果がある。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

## 【使用上のポイント】……………

### 〈かんきつ〉

- 3月に使用する場合は、上旬から中旬までに使用する。この場合、石灰硫黄合剤の散布はさける。
- 夏期の高温時散布では、低濃度で使用する。使用時期は、6月を中心とする。
- 夏期、ヤノネカイガラムシとミカンハダニの併殺をねらう場合には、6月中～下旬に散布する。ミカンハダニのみの防除であれば、7月上旬でもよい。

### 〈りんご〉

- 適用通りの使用法で良いが、散布ムラのないように注意する。

### 〈いちご、なす〉

- ハダニ類に対しては、発生初期に7～10日間隔でくり返し散布するが過度の連用はさける。
- 幼苗期では使用しない。（葉害）
- 収穫間際の散布は果実にオイル光を生じることがある。
- いちごに使用する場合は他剤との混用、近接散布はさける。

### 〈茶〉

- 摘採前4週間は使用しない。
- クワシロカイガラムシ防除（4～9月）では摘採直後の幼虫発生期に株元まで十分に散布する。

## 【薬効・葉害等の注意】……………

- 散布液調製後は速やかに使用する。
- 散布直後の降雨は、効果の低下となる。特に冬期では晴天の続く時に散布する。
- 樹勢の弱い時は散布をさける。
- 一般の殺虫剤や殺ダニ剤と混用できるが石灰硫黄合剤、ボルドー液などアルカリ性薬剤やジチアノン剤、TPN剤など及び銅剤との混用はさける。
- りんごの芽出直後の散布は使用濃度に注意し、時期を失しないようにする。
- 高温時の散布では葉害を生じやすいので、散布は日中をさけ朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で行う。
- かんきつに使用する場合は下記の事項に注意する。
  - 散布後、葉（特に旧葉）に油浸斑を生じることがあるが日数の経過に従って消失し、落葉を助長することはない。
  - ジチアノン剤との近接散布は果実に葉害を生じる危険があるのでさける。
  - ヤノネカイガラムシの第1世代防除時期ではジメトエート剤とは混用しない。
- 温州みかんにジベレリン剤と混用で使用する場合、ジベレリン剤はマシン油乳剤に加用の登録のある剤を使用する。
- アテモヤに使用する場合は、新梢発生時期及び果実着果期に散布すると葉害を生じるおそれがあるので使用をさける。
- レイシに使用する場合は、新梢伸長期に散布すると葉害を生じるおそれがあるので使用をさける。
- 展着剤として使用する場合は、混用しようとする薬剤を水で希釈した後、加えよく攪拌する。
- 食用げっけいじゅには使用しない。

●適用作物（りんご）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

●共通注意事項 8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

## 【安全対策上の注意】 .....

●甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。

●散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。

●共通注意事項 6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合の注意事項を参照。



## 【適用と使用法】 .....

### ●散布剤として使用する場合

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	マシン油を 含む農薬の 総使用回数
か ん き つ	カイガラムシ類	100～200 倍	200～ 700 ℓ	6～10 月	—	散布	—
		60～80 倍		12～3 月			
	ミカンハダニ	100～400 倍		4～10 月			
		60～80 倍		12～3 月			
	ミカンサビダニ	100 倍		—			
	ミカンキジラミ	80 倍		生育伸長期			
び わ	カイガラムシ類	50～100 倍		果実収穫後～ 開花前			
	ミカンハダニ	100 倍					
り ん ご	ハダニ類	50 倍		芽出し直前、直後			
		100 倍		展葉期（発芽 後2週間まで）			
		200 倍		展葉期（発芽 後3週間まで）			
も も	カイガラムシ類	30～50 倍		発芽前			
ネ ク タ リ ン	モモアカアブラムシ	30 倍					
な し	ハダニ類 カイガラムシ類	50 倍					
小 粒 核 果 類 く り	カイガラムシ類						
か き	フジコナカイガラムシ						
パ バ イ ヤ	ハダニ類	100 倍		生育期～ 果実肥大			
マ ン ゴ ー				緑枝硬化期 から出蕾期			
パッションフルーツ				収穫後から開 花期（発蕾期）			
ア テ モ ヤ			春剪定直後				
レ イ シ	コウノアケハダニ		—				
さんしょう（果実）	ミカンハダニ	150 倍	100～ 300 ℓ	5～10 月			
さんしょう（葉）							
い ち ご す な	ハダニ類	100～150 倍		—			

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	マシン油を 含む農薬の 総使用回数
茶	カンザワハダニ	50～100倍	200～ 400 ℓ	春季発芽前 又は摘採直後	—	散布	—
	チャトゲコナジラミ	100倍		4～9月			
		50～100倍	1000 ℓ	10～3月			
	クワシロカイガラムシ	100～150倍		4～9月			
		50～100倍		10～3月			
樹 木 類	カイガラムシ類	100倍	200～ 700 ℓ	—			
し き み	サビダニ類						
げ っ き つ	ミカンキジラミ	80倍		生育伸長期			

●植物成長調整剤として使用する場合

作物名	使用目的	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	マシン油を 含む農薬の 総使用回数
温州みかん (苗木)	花芽抑制による 樹勢の維持	60～80倍	200～ 700 ℓ	11～1月	—	立木全面散布 又は枝別散布 (ジベレリン 2.5ppm 液に 加用)	—
温州みかん				11～1月 但し、収穫後			
かんきつ (温州みかん、 長門エスキチ(無核)、 すだち、平兵衛酢、 かぼすを除く)				収穫後～3月			

●展着剤・塗布剤として使用する場合

作物名	適用農薬名	散布液10 ℓ 当りの 使用量	使用方法
か ん き つ	ベノミル剤、マンネブ剤 チオファネートメチル剤	25～50 ml	添 加
な し	ベノミル剤	—	本剤でベノミル剤 を20倍に希釈し、 塗布する